

Y's Men International

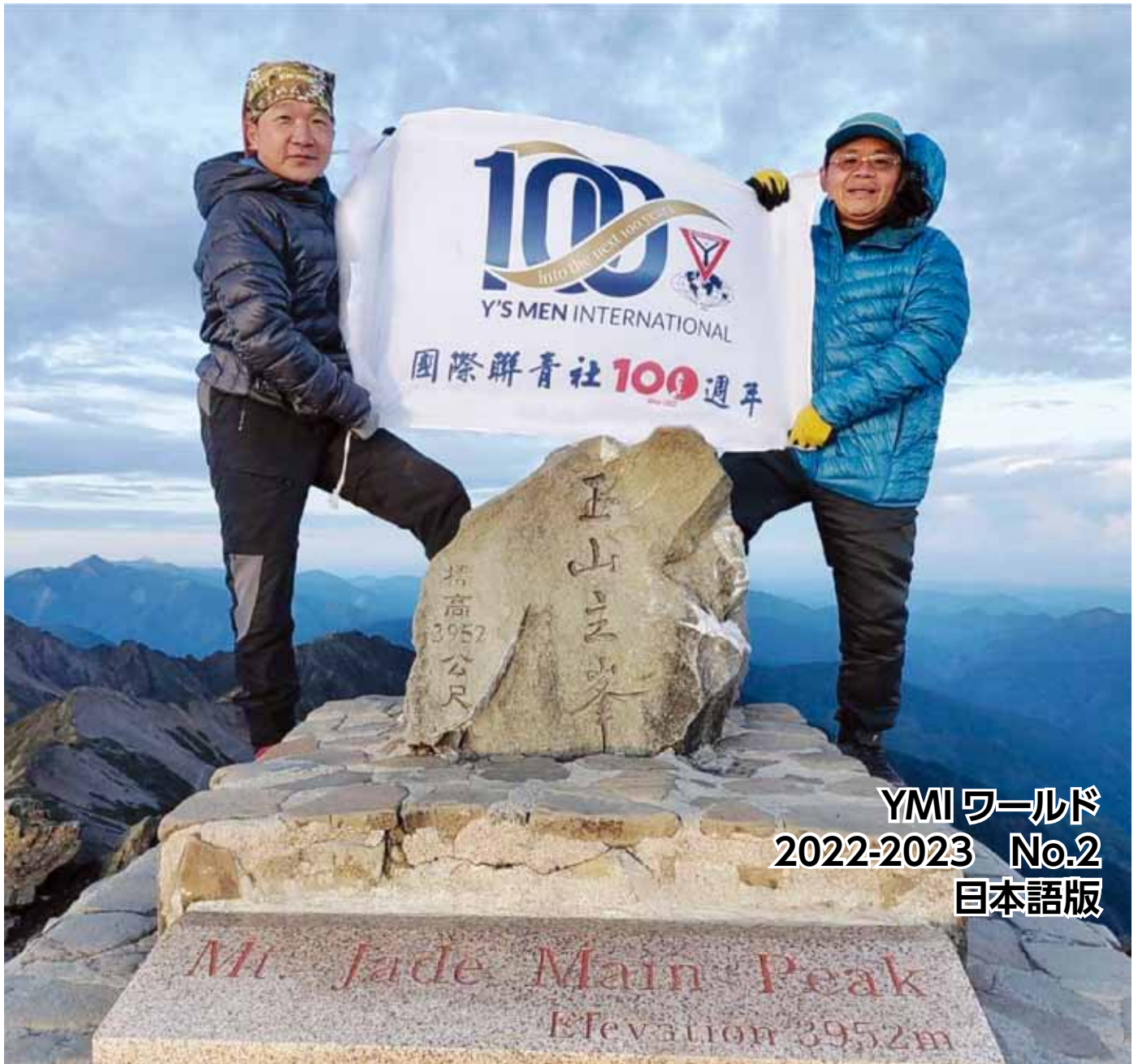
YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members



YMIワールド
2022-2023 No.2
日本語版

オマーージュ - ベンソン・ワブレ元国際会長 - 活動ニュース：バレンタイン賞受賞者 デビー・レッドモンド - YMI と気候変動 - 第一人者：私が YMI の一員である理由 ジョウン・ウィルソン - ゲストエッセイ：「プラネット B」は存在しない - 気候変動対策の重要な時期 ランジャン - ソロモン - ゴールデン・メンバー：マレー・ダンバー。YMI を通しての 50 年に亘る地域社会の奉仕を祝う - マイクロヒストリー：香港ワイズメンズクラブ、社会奉仕 90 周年 - トランジション：ベンディゴクラブ主催ブックフェア、41 年を経て主催を交代 ロブ・グリーン元区理事 - メッセージ：恐れるな！ - 怖がるな！カール・ヘルツィンエンセンキリスト 教強調国際事業主任 - 地域からのニュース：ロシア、デンマーク、オーストラリア、カナダ、カリブ海、インド、アフリカ、ネパール、タイ - 魂の真言：クリスマスからキリスト誕生まで、マックス・エディガー

読者の皆さまへ



親愛なる読者の皆さん、今年もまた、歴史の中に過ぎ去り、ことわざにもあるように、テムズ川や様々な川が水が流れていきます。今年もまた、クリスマスがやってきて、世界のある地域では盛大に祝われていますが、別の地域では暗い雰囲気があります。ウクライナ紛争がもたらした苦難と悲惨な状況は、ヨーロッパのほとんどの地域で懸念され、心配されています。さらに、過去数年間、中国人民に課されていたゼロコロナの規制が解除され、今後数週間で国民の60%にあたる8億4千万人が致命的なウイルスに感染する可能性があるとのこと。実に不吉なことです。このような世界情勢の中で、私たちは、アドベントを祝い、新しい年の誕生を祝うのです。つまり、まだ油断して無茶をする時期ではないということです。後悔するくらいなら、安全である方がいいのです。この四半期は、ワイズ運動にとって失望と悲しみが入り混じった時期でした。まず、11月に台北で予定していた待望の100周年記念祝賀会を延期せざるを得なくなり、多くのメンバーをがっかりさせました。そして、この3年間、文通を続けてきた大先輩、元国際会長のベンソン・ワブレ氏の訃報です。彼は、私が、この会報を作り続ける原動力となりました。彼は、ワイズメンズワールド誌や元国際会長ニュースレターで書いた彼の文章を、YMIワールドで使うことを無条件で許可してくれました。そして、前号までの数号で、多くの読者の方々に喜んでいただけるような記事を掲載しました。しかし、その内容は、単に情報提供のためだけでなく、熱心な一般会員にとって挑戦的なものもありました。この号を通して、個人的には謝意を表し、ワイズ運動としては、氏の功績に敬意を表すものです。いつものように、私たちは、オリジナルまたは以前に出版されたソースから、いくつかの記事を拾い集めることができました。元国際会長のジョウン・ウィルソンと元理事のロブ・グリーンズの投稿に

玉山の頂上で 2023年3月に台北で開催されるイベントに向けて100周年記念の旗を掲げる台湾のワイズメン。

YMIワールド

ワイズメンズクラブ国際協会

国際本部:Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長:コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ:田尻忠邦(委員長・大阪)、田中博之(東京多摩

みなみ)、朝倉正昭(東京世田谷)、今城高之(横浜つづき)、

生川美樹(川越)、利根川恵子(川越)、花輪宗命(東京八王子)、

比奈地康晴(東京)、倉田正昭(京都)、谷川寛(大阪センテナリアル)、

谷本秀康(広島)、中井信一(奈良)、前田香代子(熊本ジェーンズ)

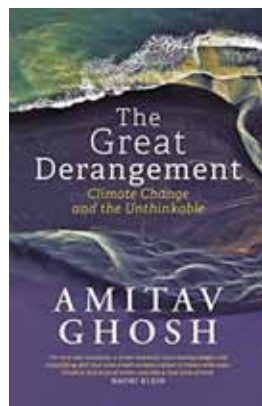
印刷:(株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

感謝します。また、ランジャン・ソロモンが、私たちの招待に応じて、気候変動に関する挑戦的な記事を書いてくれたことにも感謝します。マックス・エディガーは、彼の連載コラムの中で、私たち、特にキリスト教徒は、「宗教的な聖日を、信仰や精神性の源について深く考える時ではなく、楽しいお祭りにしてしまっている」と書いています。この季節を迎えるにあたって、確かに考えさせられることがあります。そしてまた、地域からのニュースやノートが、いつもの場所にあり、喜んでそれらを皆さんにお届けします。これからもそれらのニュースを送ってください。愛と平和の贈り物、そして幸せの贈り物が、クリスマスにあなたのものになりますように。

ワイズリー

コシー・マシュー

私の本棚から



大いなる錯乱『気候変動と想像を絶するもの』アミタヴ・ゴシュ著

この本は、とても美しい本で、明らかに偉大な人物である著者の知識と知恵がまばゆいばかりに発揮されています。本書を読む体験は、数ページおきに見事な洞察を投下するジャレド・ダイヤモンドの初期の著書を読むことを思い出させるものです。本書は、3つのセクションで構成されています。「物語」、「歴史」、「政治」です。「物語」は、気候の扱いを文学的に分析したものです。英文学を専攻していた私は、このセクションでの彼の真実の導き出し方が好きで、面白く味わいました。次の「歴史」では、植民地主義の観点から気候変動について考察しています。最後の「政治」は、最も野心的なセクションです。ゴシュは、文学と歴史に関する論点を巧みに織り交ぜながら、私たちが政治的に無力である理由を冷徹に分析します。そして、最後に2つのテキストを見事に比較します。2015年のパリ協定と、ローマ法王の地球温暖化に関する回勅『ラウダート・シ』です。パリ協定は、私たちがこの混乱に陥れた経済的・地政学的思考に囚われていることを明らかにし、一方、ラウダート・シは、宗教的視点が少なくとも「非線形」思考、つまり災害が起こることを受け入れ、エコロジーと社会正義を結びつけることができることを示しています。ゴシュは、将来的には環境保護活動家と宗教活動家の合併が実現するかもしれないと示唆しています。私個人としては、このような未来を歓迎したいです。

(グッドリーダーズの書評)

自己を超えて、変革を起こそう

ベンソン・ワブレ元国際会長 (1943年3月3日～2022年10月30日)



ワイズメンズクラブ国際協会は、ベンソン・ワブレ元国際会長が2022年10月30日(日)に長い闘病生活の末に亡くなられたことを悼んでいます。享年79でした。ベンソン・ワブレは、1986年にケニアのティカYMCAに入職した1年後の43歳の時に、ティカワイズメンズクラブに入会しました。弁護士である彼は、当時、レイランド・ケニア社の総務部長として働いていました。ベンソンは、仕事以外でも、その人柄を表すようなさまざまな活動に取り組んでいました。教育熱心なベンソンは、キルマンボゴ・ティーチャーズ・カレッジとティカ・テクニカル・スクールの理事を同時に務めました。また、救世軍プライ盲学校(ティカ)の理事長、モイ・アカデミー(ティカ)の経営委員会の委員長を務めました。彼は、ケニア聖公会のマセノ北ACK教区の総長(法律顧問)でもありました。1988/89年、ベンソンはティカ・クラブの会長となりました。彼は、アフリカ南東区の区理事に選出され、1991年から1993年まで理事を務めました。1996年から1998年にかけては、アフリカ地域会長を務めました。2004年、ベンソンの

奉仕、献身、指導力を認めた仲間のワイズメンたちが、ベンソンを私たちの運動の最高の役職に選出し、その栄誉を称えました。2005/06年に国際会長に就任し、アフリカ出身のクラブ会員として初めて国際会長に選出されたのです。国際会長の任期を終えた後も、ベンソンは引退することなく、さまざまな形でワイズメンを支え続けました。会長就任以来、さまざまな役職を積極的に引き受け、その難題に取り組んできました。2010年横浜国際大会委員会、国際憲法審査委員会、マニュアル審査委員会、国連プロジェクト委員会の委員長、元国際会長クラブ会長など、さまざまな役職を歴任しました。また、2010年には国際書記長審査・選考特別委員会のメンバーでもありました。2015年、ベンソンの長年にわたる運動への献身と愛情が認められ、協会の最高の栄誉であるハリ・M・バラントイン賞を受賞しました。ベンソンは、妻のマリー・ワブレとアンソニー、ケネディ、ブレンダ、マイケル、パトリックの5人の子どもたちによって、終始愛情を持って支えられてきました。

バランタイン賞受賞者



キム・サンチェ直前国際会長は、2022年10月末に韓国、キメ市の自宅からビデオによる発表を行い、当協会最高の榮譽であるハリー・M・バランタイン賞をデビー・レッドモンドに授与しました。

デビーは、アメリカ合衆国セントルイスのキャロンデレットワイサーサービスクラブ所属で、2016年から国際ヒストリアンを務めています。デビーは、私たちのレガシー（遺産）の保存と、2022年の祝賀会に関連する複数の課題に取り組んできました。彼女は、様々な目的のために私たちの歴史に関する物語や、写真、プレゼンテーション資料をまとめるために、膨大な時間を費やしてきました。

キム直前国際会長は、彼女のこの役職での仕事だけでなく、YMIの活動全般に対する模範的で無私無欲の彼女の奉仕に対して、この賞を捧げることに喜びを感じていと語りました。

デビー、おめでとうございます。そして、ワイズメンズクラブ国際協会への献身に感謝いたします。

iGo インターンシップ

iGoは、ワイズメンズクラブ国際協会とYMCAが共同で行っている就業体験プログラムです。このプログラムは、YMIの各種組織の一員である18歳～30歳（渡航予定時）の若者を対象としています。対象者は、以下のとおりです。



◆ワイズウィメン、ワイズメン、ワイズメネットの子弟および孫

◆YMIに附属する、ワイズメネットクラブまたはワイズユースクラブに所属している該当する年齢層の若者

◆YMCAジュニアスタッフ

詳しくはこちらをご覧ください。 <https://www.ysmen.org/partners/youth/programmes/igo/>

YMI と気候変動

最近エジプトで行われた気候変動に関する国際会議、いわゆるCOP27では、人類に影響が少ないとされる平均気温の上昇の1.5℃はおろか、2℃未満にすることさえ達成出来ていません。

この問題に対する答えは簡単で、よく知られています。私たちは化石燃料の使用量を減らし、最終的には使用しないようにしなければなりません。しかし、豊かな国々は化石燃料を使うことで豊かになってきたため、そうして得た経済的利益を手放したくないのです。

多くの国が「ゼロネットカーボン」目標を発表しており、最も一般的なのは2050年までにゼロネットカーボンを達成することです。しかし、2030年までに温室効果ガスの削減目標を100%に近づけなければ、平均気温の上昇を1.5℃に抑えられる可能性はありません。

化石燃料業界にとって、温室効果ガスを排出し続けることは、依然として大きな経済的利益があります。化石燃料業界は、その膨大な資金力を利用して、必要な行動をゆっくりと、あるいは全くとらないように、政治的な決定に影響を及ぼしています。たばこ業界が何十年にもわたって喫煙が健康問題に影響するという警告を最小限に抑え続けた例を考えると、この方法は成功することが知られています。

それゆえ、世界中の政府が迅速に行動することに頼ることはできないのです。私たちは、率先して行動することができますし、そうしなければならないのです。

YMIでは、「環境保護基金」への寄付を、ウェブサイト(<https://www.ysmen.org/donate/>)から簡単に行えるようにしました。これらの資金は、温室効果ガスを削減するプロジェクトを支援するために使用されます。YMIは過去10年間、役員の変動の際、特に飛行機での移動に伴う際の温室効果ガスの排出を「相殺」するために、いくつかのプロジェクトに資金を提供してきました。しかし、私たちの役割を十分に果たすためには、より多額の献金が必要です。そのために、すべてのクラブに寄付をお願いしています。排出量を削減するプロジェクトの資金援助先は毎年募集されており、3月15日が締め切りとなっています。したがって、現在から2023年3月15日までの間に環境保護基金に寄付された金額によって、次回にどのようなプロジェクトを支援できるかが決まります。

ベンディゴワイサーサービスクラブ（オーストラリア）は、他のクラブの模範となるべく、この基金に1,000スイスフランの寄付を行いました。

コリン・ランビー
YMI グリーンチーム



ワイズメンズクラブ国際協会が資金提供したタイ・チェンマイのサオヒンYMCAの太陽光発電システム

なぜ私は YMI に参加したか

元国際会長 ジョウン・ウィルソン



私が初めてYMIに出会ったのは、今から約半世紀前のことです。私は 大学を卒業したばかりで、オタワでの生活と仕事を楽しんでいました。数ヶ月に一度、私の教会の聖歌隊の仲間であるデイブ・ホールが、私の肩を叩いて YMI のクラブ例会に誘ってくれました。私は、丁寧に言い訳をしたものです。それで終わると思っていたからです。しかし、

デイブは、しつこく、丁寧に、おそらく5、6回は誘ったと思います。彼は、決して諦めないとわかったので、ようやく承諾しました。

1973年11月の最初のクラブ例会で、私は、会員の多様性(年齢、学歴、職業)と、ほとんどの会員が何らかの役割を担っているように見えたことに感銘を受けました。また、集められた募金額ではなく、会員の熱心な働きによって支えられている奉仕活動に焦点が当てられていたのも気に入りました。社会的地位が重要視されず、その代わりに、他者に奉仕することで生まれる違いが重要であったことも気に入った点でした。それで、驚いたことに、私はこのクラブを継続することになり、1974年1月に正式な会員となりました。女性で会員になったのは、私が2人目でした。その後、何人かの会員の奥さんもすぐに入会されました。このクラブは、昔も今も、形態、姿勢ともに男女共存です。

これがYMIの会員になったきっかけですが、会員を続けるには、他にも次のような要因が影響しました。

◆会計という仕事を頼まれ、それをうまくこなすためのサポートを受けたこと。

◆意思決定の際に、私の意見やアイデアに耳を傾け、検討してもらえたこと。

◆早くから、そして何度も、クラブのリーダーの一員となる機会を与えてもらったこと。

◆生活上の要求(子供が小さい、仕事が増えたなど)が増えても、例会に出席した時には、いつでも歓迎されたこと。クラブの義務を果たしていないと思われると感じることがなかったこと。

◆家族で3年間日本に赴任したとき、オタワクラブの会員資格を維持しつつ、東京クラブに受け入れられたこと。



BF代表として友人と1978年、日本にて

もついろいろな要素がありますが、何が私を変えたのかとうことがお分かりいただけたと思います。

では、このことが、結婚、子供、教師、そして学校運営など私の人生の歩みにどのような影響を与えたのでしょうか。私が、ホームクラブやYMIとの関わりを通して得た経験やリーダーシップの醸成は、私の個人的、職業的成長にとって非常に意義あるものでした。私は、自分が、当初は全く知らない、幅広い責務をこなすことができると知りました。マルチタスクをこなす、あらゆる人と効果的にコミュニケーションをとり、そして思慮深く議論に貢献することで尊敬されることを学びました。いくつかの出来事は、私の人生を変えることになりました。



ジョウン(左から2人目)とステュアート(右端)、日本の友人とともに1980年、ストックホルムにて

◆会員になってからわずか数年でクラブ会長に選出されたこと。これは、良い指導が必要でした。

◆1977年、第1回カナダ地域大会の実行委員長に任命されたこと。それに伴い、国際議会への出席も含まれたこと。この場合も指導が不可欠でした。

◆1978年にメルボルンで開催された国際大会に参加するBF代表として

選ばれ、オーストラリア、スリランカ、香港、日本のクラブを訪問し、YMIの素晴らしい世界的なファミリーと出会い、現在も続けている友情を育むことになったこと。

7 ページへ続く→

「惑星 B」は存在しません – 気候変動対策の最重要時期

ランジャン・ソロモン



気候変動は、地球にとって現実であり、否定できない脅威です。私たちが知っている文明は、突然に終わる可能性があります。特に世界の3分の2で、実際に終わりつつあります。富裕層は、もう少し命を長らえるかもしれません。最終的には、世界のあらゆる場所が、気候変動の重荷に耐えかねて崩壊します。私たちの唯一の惑星を破壊し尽くしたあとに逃げ込める「惑星 B」は、存在しません。人類が生存するための方法を変えるしかありません。

気候変動の影響は 破滅的な次元で確認されています。教育、革新、エコ正義への服従、そして気候変動への義務を果たすことで、私たちは、地球を守るために必要な変化を起こすことができます。

国連は、気候を「気温と気象パターンの長期的な変化」と定義しています。そして、この変化は、自然なことではあるが、1800年代以降、気候変動の主な原因は、人間の活動であると付け加えています。その主な原因は、化石燃料（石炭、石油、ガスなど）の燃焼で、温室効果ガスを発生させていることです。

米国環境保護庁は、太陽、地球と海、風、雨と雪、森林、砂漠とサバンナ、そして人間のすることすべてがつながっているシステムであると説明しています。しかし、地球の気候は、特定の場所の気候の「平均値」以上のものです。気候系は、相互に深く関連しています。それらは、孤立した事象ではなく、世界のさまざまな地域に波及する劇的な可能性を持っています。例えば、太平洋の気温上昇によって台風が発生し易くなり、台風は、より強い風、より多くの雨を降らせ、より大きな被害をもたらします。また、海流を変化させ、南極の氷が溶けて、ニューヨークが水没する

ランジャン・ソロモンは、地方、国、アジア・太平洋地域そして世界レベルのYMCAで33年間勤務した。現在、彼は、「Badayl」（アラビア語で「選択肢」の意）というコンサルタント業を営んでいる。主な分野は、人権、観光業における正義、中東である。

までに海面が上昇することもあります。

このようなシステマ的なつながりがあるからこそ 地球規模の気候変動は非常に重要であり、また非常に複雑なのです。**私たちの行動は、論理を裏切っています**

ビジネスや政治における意思決定者が、気候変動がもたらす災害を予測するとき、彼らは必然性として語りがちです。まるで、将来の世代は、関係なく、世界は、単なる瓦礫と化し、人命は、交渉の余地があるかのようです。コストが第一に考慮され、生態系への影響は、後回しにされます。利益が「私たちの共通の未来」よりも優先されます。産業界は、石炭を燃やすことで発生する温室効果ガス（GHG）や黒色炭素を大気中に放出し、何の補償もしない傾向があります。しかし、きれいな大気は、限られた資源です。大気が温室効果ガスや黒色炭素を吸収する量には限りがあり、浄化のコストが発生するのです。



論理的に考えれば、石炭のような希少な資源に対価を払っている企業が、その対価として、廃棄場所としての環境のような希少資源にお金を払わなくてよい理由はありません。もし、すべての企業が損益計算書において、計画するビジネスを行うための基本的なコストの中に環

境が含まれていれば、「気候変動への対応」はもはや高価な追加コストではなくなるでしょう。環境対策は、ビジネスを行う上での標準的なコストとなるはずですが。しかし、今日、環境を重視する企業や消費者が少なすぎ、そのため、環境に関する費用は、「余分なもの」とみなされ、費用ではなく、高価なものとなっています。

より公平な世界の実現に向けた挑戦

1987年、「環境と開発に関する世界委員会」（WCED: 1983年設立）は、「私たちの共通の未来」と題する報告書を発表しました。

この文書は、委員会の議長であったグロ・ハーレム・ブルントラントの名をとって「ブルントラント報告書」と呼ばれるようになりました。これは、今日一般的に理解されている、持続可能な開発のための指針を示したものです。この報告書では、地球環境の重大な問題は、主に南半球の大いなる貧困と北半球の持続不可能な消費と生産のパターン

次ページ下段へ続く

自己を超えて、変革を起こそう

5 ページ続き



YEEP 交換留学生のポーと長男、1981 年

◆我が家では、1981 年から1989 年の間に3 人のYEEP 交換留学生を受け入れ、私たちに、デンマークにも家族ができたこと。

◆国際議会のメンバーであることは大きな特権と名誉であり、YMI のリーダーたちと、異なるレベルで働くことになったこと。

自分の人生を振り返るとき、YMI の一員になっていなかったら、私はどうなっていたらうかと思います。私は、より良い人間になったと確信しています。世界のより貧しい地域に住む人々の課題をよりよく理解できるようになったと確信しています。世界中に友人を得て、私は、より豊かになったと確信しています。そして、私の中に育つ価値のあるものを見出してくれた人々の信頼に感謝しています。そのお返しに、私はこれからも YMI に入会したばかりの人たちや、指導的立場に就いたばかりの人たちを指導する支援をし続けたいと思います。私が何年もの間にYMI から得たもの全てに対して、決して恩返しをすることはできません。しかし、私は、これからも可能な限り、奉仕を続けたいと思います。

皆さんには、100 周年を迎えるにあたって、YMI の一員であることが、皆さんの人生にどのようなプラスの影響を与えたかを振り返ってみてください。そして、次の世紀に向けて、この偉大な組織をどのようにサポートし、奉仕していききたいかを考えてみてください。

ンに起因していると述べられていて、開発と環境を一体化させた戦略の必要性を訴えました。これは、「持続可能な開発」という、今や、良く使われる言葉で、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たすプロセスであると説明されていました。気候危機から最も大きなリスクにさらされているのは、発展途上国の人々です。彼らは、自分たちがほとんど作り出さなかった致命的な脅威にさらされているのです。

また、多くの人々がエネルギー不足に陥り、健康、教育、収入、幸福を脅かされています。

気候変動対策は、この2つの問題に取り組むことができ、より公平な世界を作り、最も貧しい人々が低炭素社会の実現に近づくことができるのです。

ワイズメンズクラブ国際協会は、その巨大な世界的ネットワークと、善意ある人々、より公平でクリーンな世界への正しい意思によって変革の推進者となり得ます。世界的な組織であるため 地域社会と接することができ、地域社会は、その結果、それに奉仕し、理解する最前線の企業や団体を動かすことができるのです。私たちは、これらのイノベーターは、物事を推し進めるためのスキルとツールを持っていることを知っています。しかし、本当の意味での進歩は、熱心な投資家や資金提供者、詳しい政策立案者、支援する慈善団体や NGO があってこそ初めて実現します。これは、課題でありチャンスです。

私たちワイズメンは、賢明に（ワイズに）行動できるでしょうか?できます。しなければなりません。

自己を超えて、変革を起こそう

1 EF FRIEND - CHF 50
Become an Endowment Fund Friend or nominate a club member for the privilege. Recognised by certificate signed by the International Secretary General.

2 TRIBUTE - CHF 120
Provide a written testimony for a person living or dead who has made noteworthy contributions to YMI or society. Preserved in the Golden Book at IHQ.

3 PWA FELLOW - CHF 120/240
Become a Paul William Alexander Fellow or Double Paul William Alexander Fellow. Pin and certificate of recognition signed by the IP and the ISD EF Promotion.

4 HONOUR ROLL - CHF 1 000
A bequest or living donation. Recognised by a glass statue and a special lapel pin.

100 Y'S MEN INTERNATIONAL
SAFEGUARD OUR FUTURE.
SHOW YOUR Y'S MEN SPIRIT.
Your generosity is recorded in a permanent record.
DONATE NOW!
Suggested CHF 120

私たちの将来を守ろう
ワイズメンスピリットを見せよう
あなたの寛大な行いは、永久に記録されます。
今、ご寄付を!
お奨め: 120 スイスフラン
EF フレンド: 50 スイスフラン
国際書記長からの感謝状が授与されます。
感謝: 120 スイスフラン
YMI や社会に貢献した人への賛辞の提供。国際本部の「ゴールデンブック」に記録されます。
PWA フェロー: 120 スイスフラン (ダブル (2 年間) は 240 スイスフラン)
ピンバッジと国際会長、EF 国際事業主任からの感謝状が授与されます。
オーナー・ロール: 1,000 スイスフラン
遺贈も。ガラス製の記念品および特別なピンバッジが授与されます。

エンダウメントファンド

マレー・ダンバー： YMI を通じた地域社会への奉仕活動 50 周年を迎えて

カナダのマレー・ダンバーは、1972年にピクトー郡ワイズメンズクラブのチャーターメンバーとなることを勧められました。彼の組織に対する関わりは年々高まってきました。今年、彼とクラブは50周年を迎えます。未知なるものへの恐れや仕事で手いっぱいになることへの不安から人々はワイズメンズクラブへの参加に消極的なことをマレーは知っています。「ワイズメンはそのような組織ではありません。私たちは、お互いに協力し合い助け合うために存在しているのです。このグループに関わることでどれだけの喜びと満足が得られるかを知ってもらえれば、ラインナップが揃うはずです。」ワイズメンズクラブに入会した当時、マレーは、この先どんな体験が待っているのか、まったく想像しませんでした。「もし、誰かが私にこの団体に入れば世界中を旅することが出来ると言われても、決して信じなかったでしょう。私自身、国際会議の公の場で発言する様な人間になるとは思ってもみませんでした。」カナダ、アメリカは勿論、韓国、日本、台湾など世界各地の大会に参加しました。

そして長年にわたり、彼は、様々なレベルの役員を歴任しました。カナダ/カリブ海諸国地域の地域会長も務め、少し前には国際議員でもありました。また、ピクトー郡YMCAの理事も務めました。「私は、この組織が出来る、良いことを目の当たりにし、年々責任ある仕事を任されることになりました。私は、常に地域やそれ以外の場所に貢献しなければならぬと感じていました。ワイズメンは、常に他の多くの良い組織とパートナーシップを組んで来ました。」マレーは、地元のワイズメンが、ピクトー郡ユナイテッドウエイと協力して現在も続く人気のプログラム、バイク・フォー・キッズを立ち上げたことを指摘しました。「これは、

私たちが地元で行ってきたことの一例です。国際的な活動も行っており、つい最近も私たちは、インドに酸素やその他の物資を届ける事が出来ました。インドは、新型コロナウイルスの感染拡大対策として、どうしても必要だったのです。それ以前にも、私たちはマラリアとの闘いにも深く関わってきました。」

両親の存在が大きな原動力に

アバクロンビー市の4人家族の中で育ったマレーは、両親が社会奉仕の良いお手本になってくれたと言っています。「母は看護師で、イースタン・スター・ロッジで多くの指導的立場にあり、とても行動的でした。私の父は、必要性を感じると、いつも誰かのために手を差し伸べる人でした。」彼は、自分の価値観を確立出来たのは、家族とボーイスカウトのお陰だと思っています。

当時を振り返ってマレーは、自分が企画した大きなイベントの思い出を語ってくれました。「オクトベリと呼ばれるもう一つのプロジェクトも良い思い出です。これはモジュラー方式のボーイスカウトのプログラムで、私たちのリーダーやメンバーのために行われたものです。モジュラー方式と言うのは、当時のビジネス界では新しい概念で、それをボーイスカウト活動に応用したものです。地元で開催する予定でしたが、噂が噂を呼び、最終的には240名の参加者があり、全員が様々なスキルを学びました。スカウトたちと指導者が、一緒になって学ぶことが出来ました。」ボーイスカウト活動を成功させるためには、チームワークが重要であると彼は指摘しています。

「私は、いつも誰かが時間と労力を掛けて何かを教えてくださいましたなら、私は、それを他の誰かに教える責任があると感じていました。ボーイスカウトやスカウトのリーダーとして学んだことを、ワイズメンで共有し、実践してきました。」彼の妻キャロルは、ワイズメネットの元国際主任で、ピクトー郡YMCAが設立された当初、二人とも事務を手伝い、若者を水泳大会に送迎し、補修管理も手伝いました。「私たちは、YMCAに大きな価値を見出し、その存続を願っていました。私たちは、今日でもその価値を認めています。」

マレーは、ほとんどの人が一度約束したことは、守るものだと思っています。「一旦関わりを持つと、もはや時間が有るかどうかは関係ありません。ただスケジュール調整が上手くなり、時間を確保することが出来る様になるのです。」

マレーは商業ダイバーとして働きながら、9年前に退職するまでいくつかの会社を経営していました。「余暇には、シーカヤック、カヌー、ハイキング、スノーシュー(雪上散策)、オートバイや大工仕事を楽しんでいます。」



ピクトー郡の職員に、クラブからの寄付金の小切手を手渡すマレー

この記事は、カナダのハリファックスにある郡の新聞で発表されたインタビューを、マレーのFBから引用し、若干の編集を加えたものです。

香港ワイズメンズクラブ、 90年に及ぶ社会奉仕活動を振り返る

香港ワイズメンズクラブは1932年5月5日にアジアで2番目のワイズメンズクラブとしてチャーターされました。その設立は、1924年に上海ワイズメンズクラブのチャーターメンバーであり、当時、中国区理事であったインソン・リーと香港ワイズメンズクラブのチャーター会長であるE・H・タンの尽力によるものでした。英語がクラブの公用語として選ばれたのは、会員のバックグラウンドが多国籍であったためです。

第二次世界大戦のため、クラブの活動は中断されました。しかし、戦後、クラブでは、例会や恵まれない人々のニーズに応えるための社会奉仕プロジェクトが行われ再活性化されました。戦後すぐに行われたクラブの主な社会奉仕活動は4つのボーイズ&ガールズクラブのスポンサーとなったことです。これらのクラブは学校に通うことができない子どもたちを支援するものでした。

ワイズメンは、金銭的なスポンサーシップの他に、青少年への奉仕活動にも積極的に取り組みました。青少年をより良く知るため、クリスマスにはボーイズ & ガールズクラブの子どもたちのためにフォーマルな夕食会が開かれました。夕食会にはワイズメンとその家族も一緒に参加し、これは、クラブのお祭り奉仕の伝統となりました。

外部への広がり

クラブの社会奉仕活動への積極的な参加により、ワイズメンは、社会的に広く認知されるようになりました。更に、より多くの人々に社会奉仕とサポートを広げるため、1952年には香港部で2番目のワイズメンズクラブであるカオルーンクラブが設立されました。香港クラブは、カオルーンクラブの



設立を支援しただけでなく、後には、他の8つのクラブも支援しました。2022年には香港に14のクラブが設立され、さまざまな信仰や伝統を持つ人々に奉仕しています。

1960年代、香港YMCAはウォン・イ・チャウ島のキャンプ場を開設することを計画しました。この計画は、香港ワイズメンズクラブの暖かい支

援を受け、1971年に初期費用として10万香港ドルが寄付されました。

黄金期を祝う

1972年、香港ワイズメンズクラブは、香港部の他のクラブ、即ち、ビクトリア、カオルーン、ツェンワン、ペニンシュラーのクラブと共に、ワイズメンズクラブ国際協会50周年を祝うゴールデン・ジュビリー舞踏会をヒルトンホテルにて開催しました。香港総督マーレー卿とレディ・マクレホース他のゲストをはじめとする500名を超える人々がその素晴らしいイベントに参加しました。ワイズメンズクラブは、その記念に、数



棟の寄宿舎からなる「ワイズメン・ビレッジ」をウォン・イ・チャウ島のYMCAユースキャンプに寄贈しました。

包摂的クラブとなる

ワイズメンズクラブは当初、主に男性会員によるクラブでした。クラブのメンバーは、お互いを「ワイズメン」と呼び合い、ワイズメンの配偶者と子供たちをそれぞれワイズメネット、ワイズリングズと呼んでいました。ワイズメネットとワイズリングズは共にワイズメンのサービスや機能への貴重な貢献者であり、助け手でした。女性の入会の代わりに、ワイズメンズの配偶者で構成されるワイズメネットクラブが1924年にブリティッシュコロンビア州バンクーバーで初めて設立され、その後正式にワイズメンクラブ国際協会の補助組織となりました。1970年代、YMIの国際憲法が改正されて、女性もメンバーに加えられることとなりました。

香港では、1960年にワイズメネット委員会が設立され、ワイズメンズクラブを支援することとなりました。メンバーはとても活動的で、1979年にはワイズメネット委員会に代わってバウヒニアワイズメンズクラブが設立されました。香港ワイズメンズクラブでは、2000年から女性会員を受け入れており、それ以降、女性ワイズメンバーは、着実に増え続けています。

2022年には香港ワイズメンズクラブ会員の3分の1が女性会員が占めるようになりました。彼女たちは、あらゆる種類の親睦活動や奉仕活動に積極的に参加するだけでなく、率先してクラブを導き、様々な挑戦を克服しています。2000年から2022年にかけて、5人の女性がクラブ会長に就任しました。

(提供: 90周年記念に発行された特別記念誌より)

ベンディゴクラブ主催のブックフェアが 41 年経て主催を交代 オーストラリア区元理事 ロブ・グリーン

このプロジェクトの収益は年々徐々に上昇し、最近集計した 1981 年から 2022 年までの売上高は 93 万豪ドルに達しました。1981 年当時、クラブのメンバーは 40 人ほどで、かなり若かったです。現在、ベンディゴクラブの会員数は 22 名、平均年齢は 84 歳で、最も長く奉仕しているブックチームメンバーのうち 2 名は 90 代半ばです。



1960年代から70年代にかけて、ベンディゴクラブは、古紙回収、「ウォークアバウト26」(ファンレイジング・ウォーク)、クリスマスツリーの販売、家を建てて18,600豪ドルを集めるなど、さまざまな単発プロジェクトで資金調達を行っていました。しかし、このプロジェクトが継続され、クラブに年間収入をもたらし、地域のYMCAや20

ほどの価値ある慈善団体や組織に経済的な支援を提供できるようになったのは、ワイズメンのイースターブックフェアの開催でした。

エルマー・クロウ賞受賞者で、元部長でもある長年の会員ピーター・アンマックは、1978年にブラザーフッド基金の旅助成金を受け、カナダと米国を訪れました。帰国後、彼は「クラブに毎年少なくとも1,000豪ドルを還元できる」プロジェクトとして、古本の販売を熱心に推進しました。カリフォルニアのウィットニアAMクラブを訪れた際、地元のショッピングモールで古本販売が大成功しているのを見た彼は、自分たちもこの仕事に取り組みれば、ベンディゴで古本を売って利益を上げることができる、と確信しました。

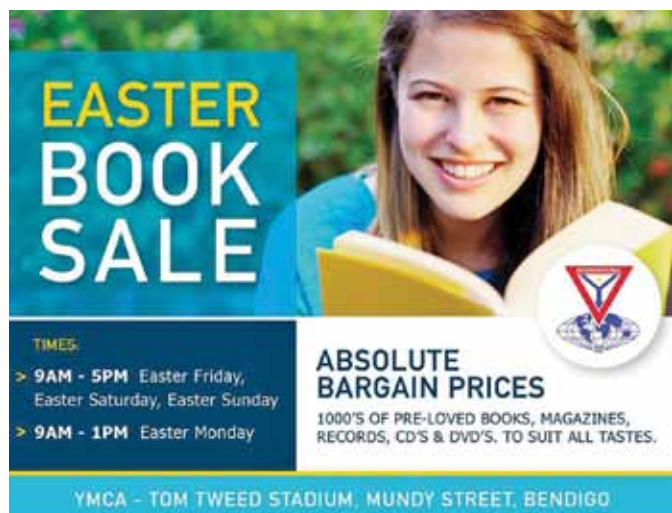
1970年代には、50豪ドルや189豪ドルの古本が売れたこともありますが、私たちは、質の良い本を確実に仕入れることが必要であること、販売する前に分類し、箱詰めし、乾燥した清潔な場所に保管しなければならないことに気づき

ました。また、販売には屋根のある広いスペースが必要で、できれば無料か、ごく少額のレンタル料で済ませたいと考えました。最終的には、1981年のイースターセールで305豪ドル、1982年には639豪ドル、1985年には1,000豪ドルを超える収益となったほど、十分な在庫を得ました。

長年にわたり、良質な本の最良の供給源は、故人の遺品や、高齢に伴い、持ち物を縮小された人々、そしてYMCAスタジアムに置いてあるアクセスし易い献本箱などでした。ブックフェアの収益が地元寄付され、多くの価値ある団体を支援していることを知った地元の人々は、非常に寛大でした。さらに、ロータリークラブがイースター・アート・ショーをYMCAスタジアムから移転したことで、大きな一歩を踏み出しました。それ以来、クラブはブックフェアの会場をそこに移し、スタジアムの裏には、本を分類・保管するための部屋も持ちました。

私たちは、地元のYMCAのほかにも、20あまりの他団体の支援をしていました。それらはベンディゴ女性保護施設、ベンディゴ青少年合唱団、恵まれない子供たちの教育資金を提供するスミスファミリー、山火事や洪水の救援基金、ベトナムのYMCA職業訓練、タンザニアの聖ジュード学校、ベンディゴ食料配給会、ハンセン病伝道所、ベンディゴ科学発見センター、そして地域で孤立し、孤独で恵まれない人々に午前10時から暖かい飲み物と仲間を提供し、午後12時半から美味しい食事を提供する合同教会のプロジェクト「みんなで一杯のお茶を」などでした。

このプロジェクトからの収益は年々増加し、1981年から2022年までの売上を集計したところ、930,000豪ドルになりました。1981年当時メンバーは40人ほどで、まだ若かったのです。現在、ベンディゴクラブの会員数は22名、平均年齢は84歳で、最も長く働いているブックチームメンバーのう



ブックフェア(下)で毎年人気を博した象徴的なポスター



次ページ下段へ続く

恐れなくて! - 怖がらないで!

私たちの周りでは、沢山の事柄が起っています。私たちは、いつも悪いニュースを耳にしています。良いニュースも悪いニュースになってしまうようです。

エジプトでは「国連気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)」、中国では「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」、イランでは「女性の権利」、カタールでは「サッカー」、アフリカでは「飢餓が発生」、パキスタンでは「洪水」、ウクライナでは「戦争」などなど、毎日毎日、悪いニュースばかりです。世界中で起っていることは恐ろしい事ばかりです。

どうしたら良いのか分からず、麻痺し、混乱し、怯えてしまうこともあります。確かに、良い知らせも私たちには受け取ることが必要です。将来のための良いニュース。クリスマスにふさわしいニュース。2023年の新年にも良いニュースがあります。

福音は良い知らせです。クリスマスの福音は特に良い知らせです。「天使は言った。『恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。』」(ルカによる福音書2章10節)

この「良い知らせ」という言葉は、多くの困難と恐ろしく絶望的な状況の中でも、福音書の中に24回も出てきます。聖母マリアのもと天使がやって来て、神の子を産むようにと告げた時。イエスが弟子たちに福音を伝え、国中で良いことをしなさいと言われた時。イエスが、疑いと信仰の薄い弟子たちの前に、波打ち際を歩いて来られた時。ザアカイが神殿で神からの訪問者に出会った時。彼とその妻エリザベトに男の子が生

まれるという良い知らせを持って来た時。弟子のシモン・ペテロたちが大漁になった時。イエスが娘を生き返らせるために、ユダヤ教会の支配者であるヤイラスを訪ねて来た時。イースターの朝早く、女性たちが、イエスが葬られた墓を訪ねた時など。その他にも、福音書にはいくつかの例があります。

私たちは、福音書の中で、「恐れなくて! 怖がらないで!」と言って、すべての人に良い知らせがあることを、覚えてもらうことが大切です。すべてが悪い知らせに満ちている時でも、良い知らせは私たちに一人ではないことを教えてくれています。イエスは私たちに希望と安らぎを与えるためにこの世に来られ、私たちが人に尽くし、人を助け、人に仕えることが出来るようにして頂きました。イエスは神様から愛を与えられ、それを私たちが受け持って与えることが出来るようにしてくださいました。

これは100周年を迎えるにあたり、全てのワイズメンへの私からのクリスマス・メッセージです。

「メリークリスマス!」 「恐れなくて! 怖がらないで!」

キリスト教強調国際事業主任
チャプレン：カール・ハーツ・イェンセン



ち2名は90代半ばです。毎日本箱を空にし、週に2回2~3時間、本を分類し、箱に入れ、保管し、廃棄された本をリサイクルのために整理し、時には寄付を希望する人の本を集めるなど、その仕事は徐々に数人のメンバーにかかってきていました。なので、このプロジェクトは、若いチームに引き継ぐことになったのですが、振り返ってみると、私たちは、ピーターの「年間1,000ドル」という目標をはるかに超え、メンバーとの親睦を深め、本を扱う中で奉仕の機会も得るこ

ができました。

幸いなことに、私たちが長年支援してきた団体の一つであるベンディゴ食料配給会が、2023年1月1日に引き継ぐことになりました。このため、ベンディゴ・ブックフェアは継続され、その収益は、ベンディゴ食料配給会が生産する年間177万食の食事を分かち合う、ビクトリア州中央部のいくつかのコミュニティの非常に価値のある人々のために、今後使われることとなります。



仕分けされ、梱包され、その日、本番を待っている



新しい読者を待っている印象的なディスプレイ

ロシア: 特別な子どもたちについての特別な物語

12月3日(1992年に国連で制定された国際障害者デー)、 Санктペテルブルクのワイズメンは遠隔地の村に行き、特別な子供の親が語る物語を記録し、同じような状況にある人たちと共有し、困難を乗り越える手助けをする特別な子どもたちについての特別な物語プロジェクトを継続しました。

今回は、障害を持つ15歳の娘さんのために、その子の父親が自宅の近くに建てたパーソナルスクールを訪問しま



した。愛があればこそその奇跡です。学校だけでなく、周りに3つの遊び場をつくり、特別なソリや「家庭料理のカフェ」、ポップコーンと綿菓子売る自動車まで作ったのです。

デンマーク: グリーンランド子供協会にアールボルグフス記念賞が贈られました



10万デンマーク・クローネ(約14,000米ドル)のアールボルグフスワイズメンズクラブ記念賞が、グリーンランド子供協会とその活動に贈られました。「グリーンランドの子どもたちが、強いコミュニティ、しっかりした大人、そして特にグリーンランドの言語と文化に触れることができるようにするためのグリーンランド子供協会の貴重な活動」が評価されたものです。

多くの応募者の中から受賞者を選考するため、ワイズメン以外の4名で構成される選考委員会が設置されました。11月21日、ムシケンズ・フス・アールボルグで行われた祝賀会で発表されました。

オーストラリア: ベンディゴクラブがロチェスター洪水の犠牲者たちの救援に来訪

10月16日、エパロック湖の放水路には2.3mの水が流れ込み、補助放水路は、その余剰水を流出させていました。そのため、カンパスペ川が、数日後にロチェスターの町へその水が流れ込むのを止めることはできませんでした。数百戸の家屋が浸水し、川は堤防を決壊させ、その周辺の地域に流れ出しました。

「今回の洪水被害に対して、私たちが寄付した5,000豪ドルの寄付金は、町の他の洪水による被害の大きさを考えると、少額かもしれません。しかし、本やクリスマスツリーの販売で集めた資金が、被災地のために使われたことは、私たちの誇りです」と、クラブブリテン12月号は報じています。



カナダ：焼き菓子と手芸品セールでチャリティを支援



ぐに完売されて、901カナダドルの収益金がフレデリクトン・ホームレス・シェルター、フレデリクトン地域食堂、そしてYMCAストロング・コミュニティ・キャンペーンに寄付されました。頑張りました。

恒例の焼き菓子と手芸品のセールがカナダ・フレデリクトンエプシロンYサービスクラブの女性たちを中心に地元のYMCAのロビーを借りて11月22日に行なわれました。すべての商品がす

カリブ海:マンデヴィル Y サービスクラブの川清掃作業



マンデヴィルYサービスクラブは、環境清掃に従事して、川のごみを現金に変える作業を行いました。作業で集められた瓶



やプラステックはきれいに処理され、道路の舗装用レンガに転換されました。

インド:こどもたちに読書する習慣をつける事業

ヴァヤナ・カラリ(直訳すると「読書の習慣づけの場」の意味)―これはインド・中央西区・09部の長期に亘る事業ですが、こ

の事業が一流の地域の言語の新聞と提携していくつかの学校で子供たちに読書習慣をつけるために実施されています。



アフリカ:ワイズメンクラブが持続可能な農業を振興



カメルーンの農業は技術的進化を遂げていませんでした。食糧危機への不十分な戦いは、生産と流通網の崩壊によって、生鮮食品が埋め立てゴミとなっていて、その状況はパンデミックによって一層悪化しました。コモングッドバメンダワイズメンクラブとパートナーのウンビアメ新ビジョン多目的農業開発

センターは、グローバル・ユース・モビライゼーションの支援を得て、いくつかの家族が、より一層自給できるようになる農業技術を、再生有機テラリウムを通じて、獲得し、生鮮野菜を得られるように援助しています。この新プロジェクトは、地元レベルでの食料安全保障の目的で構築されています。

「我々是对応している」と、ネパールのワイズメンは言っている



11月9日、リヒタースケール・マグニチュード6.6の地震がネパール西部で起こり、6人が死亡し、180人以上の人々がホームレスになりました。

ネパールのルンビニとポカラのワイサービスクラブは、支援物資の提供に素早く反応しました。次期区理事のディーバク・

バンダリとクラブ会長のアルン・バットは、自分たちの仕事を犠牲にして、1週間の間、でこぼこな道路を進み、5時間以上もの間、山道を歩き、被災した村々を訪ね、被災者を慰問し、テントや暖かい衣服、食料と水を提供しました。

タイ:100周年を異なる形で迎える



チェンマイワイズメンズクラブの2つのコミュニティーサービス・プロジェクトである、「植樹」と「果樹の苗の寄贈」は、2022年のYMI100周年に際して最もふさわしい貢献だとされました。

そして、11月にチェンマイのチョントン地区のチョントン多目的教育センターや、ワット・パタンタラピロン寺院で会議や事業が実施されました。

クリスマスからキリストの誕生へ

例年どおりクリスマスが間もなくやって来ます。ここ香港では、どのアメリカの大都市で行われるお祝いにも匹敵する規模でクリスマスが祝われます。各デパートは、どこがロビーに最も規模が大きく豪華な冬の風景を作り上げることができるかを競います。香港島の港全域の通りや建物はライトアップされ、目を見張るような光のショーが毎晩のように催されます。港の冷たい水面に映り込むこの光のショーは、世界中からクリスマスの訪問客を引き寄せます。

アジア中の都市と同様に香港もクリスマスを盛大にお祝いするのですが、クリスマスを少し商業主義がかった宗教のお祝いと呼びがちなアメリカとは異なり、香港住民は、正直にクリスマスは商業主義的な祭日であると言います。私が、クリスマスのお祝いを楽しむ理由はその正直さです。しかし、今年はその他の宗教的祝日である、ユダヤ教のヨーム・キップール、イスラム教のラマダーン、ヒンズー教のジャンマシュタミなどとは異なり、なぜキリスト教の祝日が世界中の国々で取り入れられたのかと突然思い立ち、じっくりと考えてみました。

おそらく、私たちキリスト教徒はクリスマスとイースター（キリストの復活祭）に元々込められているメッセージは影響力がとても強いので、その他の宗教を信仰する人たちでさえ、クリスマスとイースターに引き込まれるのだと考えて自画自賛したいかも知れません。しかし、この二つの聖日を祝っているアジア中の地域社会を注意深く観察すると、私たちキリスト教徒にとって極めて神聖な日であるクリスマスとイースターが世界の大多数の人たちにも宗教的意味あいを持っていると最終的に結論づけるのは容易ではありません。クリスマスとイースターは単に贈り物をしたり、パーティーを開いたり、色とりどりの飾りつけをしたり、数日の休暇を取ることを重んじる商業主義的な祭日となっているからです。

楽しい祭日

しかし、もしもキリスト教の聖日がそれほど商業化されているのであれば、なぜヨーム・キップールやラマダーンやジャンマシュタミはそれほど商業化されていないのでしょうか。かつてベトナムの仏教徒の友人になぜ仏教徒が、これ程盛大にクリスマスを祝うのかと尋ねたところ、彼は、「我々ベトナム人は、楽しい祭日が大好きなのです。その起源が何であるかについてはまったく無関心ですが、楽しければそれ取り入れるのです。」と答えました。

その答えがおそらく、私の悩みを少しは解消してくれます。私たち（キリスト教徒）が、キリスト教の聖日であるクリスマスを私たちの信仰と精神性の根源について深く瞑想するための時ではなく、楽しい祭日へと変えたのです。私たち自身が、ショッ

* マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者です。

ピングと会食のどこかに、キリスト教の信仰に重要な幾つかの宗教的要素加えようとして、クリスマスとイースターを商業主義的祭日に変えたのです。世界が目にし、取り入れたものが、キリストの一生と宗教活動の最も重要な行事であるクリスマスとイースターに私たちキリスト教徒が付加した商業主義的特徴なのです。ユダヤ教徒、イスラム教徒、ヒンズー教徒は、このようなあらゆる商業主義が彼らの信仰の祭りに取って代わることを許さなかったようです。

私たちの聖日であるクリスマスとイースターの本質が、より多くの利潤を追求しようとする飽くなき商業主義に屈したことを目の当たりにして誠に残念ですが、その非は全面的に私たちキリスト教徒にあるのです。ユダヤ教徒、イスラム教徒、ヒンズー教徒がイースターとクリスマスの真の意味を変えたのではなく、私たち自身が変えてしまったのです。

困難な闘争

時計を巻き戻して、クリスマスとイースターが実際には何を意味するのかを世界の人たちの為に解釈し直すことは不可能です。今日に至るまで信仰と商業主義の戦いは常に極めて困難な闘争でした。そして恐らく私たちが人であるがうえに、残念ながら商業主義がその闘争に勝利することが多いのです。それでは私たちには何ができるのでしょうか？ひとつのちょっとした提案としては、クリスマスを、パーティーを開いたり、プレゼントを贈ったり、商売をするための時期として据え置く一方で、世界の教会に対して贈り物、きらめく装飾品、玉子酒の魅力を損なわないように、別の時期にキリストの誕生を祝うことです。そうすれば驚くべきイエスの誕生という不思議とその変化をもたらす力に焦点を当てることができるからです。香港、東京、そして世界中の町や村の住民に対してキリスト教の教義には、より多くの物を求める俗欲を克服し、私たち全員を結束し、分かち合い、家族を思いやるなんらかの要素が含まれていることを徐々に身をもって示すことができるのです。そうすれば、抗しがたい金銭欲と所有欲から生まれた競争が、慈愛を持って富を共有する行為に取って代わられることになり、全ての人が尊厳を持って平和のうちに生活することが可能になるのです。キリストの誕生は私たちの混迷した世界が非常に必要としている、全ての人に神の驚くべき変化をもたらす愛の祝賀行事となるのです。

クラブ・部・区の指導的立場にあるメンバーに、YMI
ワールド誌に掲載するためのそれぞれの活動に関する
話や記事を送られるようお勧めします。

次号掲載記事の提出締切日は
2023年2月21日です。お急ぎを！

台北へようこそ YMI100 周年記念祝賀会

開催日: 2023年3月9日~12日

会場: グランドハイアットホテル、台湾、台北

ワイズメンの皆様へ

メリークリスマス、そして2023年の新年おめでとうございます。2023年3月9日~12日、台湾のグランドハイアット台北にて100周年記念祝賀会が開催されます。2023年3月9日には、オプションでゴルフによる親睦とRBM運動のための資金集めを目的としてロールバックマラリア・ゴルフトーナメントを開催します。

このYMI100周年記念イベントは、私たちの誰にとっても必然的に注目される日です。あなたの人生で一度だけ、あなたのこれまでの人生で起こることであり、あなたの目でそれを捕らえることができます。ワイズメンでいる間に、この機会を大切にしなければなりません。

この100年という節目の年に、台湾で開催される「台湾での誕生日会」に参加することで、ストレスから解放され、楽しい思い出を作ることができるはずですよ。

イベント期間中、多くの歴史的、文化的、そして楽しいパフォーマンスが用意されており、あなたは、私たちの組織の過去と現在の栄光を一目で見ることができます。

どうぞお越しください。

チャーミング・シェン ホストコミッティー委員長

プログラム 3月9日~12日

プレカンファレンスツアー (オプション) あり

- 3月9日 1. ロールバックマラリア・ゴルフトーナメント
2. ウェルカムパーティー&授賞式

- 3月10日 1. レセプション&受付
2. 開会式 (バナー掲揚)
3. サンクスギビングサービスとセンチニアル合唱隊
4. 国際会長&ホストコミッティー委員長スピーチ/私たちの物語1
5. 名誉賞・賞品授与
6. 文化公演・晩餐会・写真撮影
7. 元国際会長/元地域会長クラブ/リーダーズ

- 3月11日 1. 私たちの物語2
2. 基調講演
3. IBC- 調印式/YMCA 礼拝
4. 社会奉仕プロジェクト (鯨類救護活動)
5. 半日市内観光 (4~6コース)
6. カルチャー&IBC ナイト (先住民のパフォーマンス付きディナー)
7. 韓国のパフォーマンスとその他の地域

- 3月12日 1. センテニアルモーニングウォーク
2. ユース合唱団/スピーチ/私たちの物語3
3. 基調講演 (ヤング・リーダーズ)
4. 2024年バンガロール国際大会プロモーション
5. 100周年記念宣言
6. 3日間のハイライト
7. ホストコミッティーへの感謝
8. 集合写真
9. 感謝の言葉
10. 閉会式
11. 別れの讃美歌



Welcome to Taipei!

YMI CENTENNIAL CELEBRATION

New Date: **March 9-12, 2023**
Venue: **Grand Hyatt Hotel, Taipei Taiwan**

Merry Christmas and Happy New Year of 2023!

AGENDA March 9-12
Pre-Conference Tours (Optional - Available)

March 9	1. Roll Back Malaya Golf Tournament 2. Welcome Party & Award Ceremony	March 12	1. Centennial Morning Walk 2. Youth Choir / Speech / Our Story 3 3. Keynote Lecture (Young Leaders) 4. 2024 IC Singapore Promotion 5. Centennial Declaration 6. Highlights of 3 days 7. Reception to IBC 8. General Prayers 9. Words of Thanks 10. Closing Ceremony 11. Farewell Hymn
March 10	1. Reception & Registration 2. Opening Ceremony with Flag Raising (ceremony) 3. Thankgiving Service and Centennial Cheer 4. IP & HCC Speech / Our Story 1 5. Honorary Award & Prize 6. Cultural Performance & Feast Dinner & Prizes 7. PIP / PWP Club / Leaders		
March 11	1. YMI Story 2 2. Keynote address 3. IBC-Signing Ceremony / Ymca Service 4. Community Service Project (Whale Rescue) 5. Half-Day City Tour (4-6 Cities) 6. Culture & IBC Night (Dinner with Native performance) 7. 10 Min. Music Performance & Other Areas		

